

【南九州税理士会会長賞】

税は悪なのか

鹿児島市立西陵中学校

一年 小田 結子

「税金をそんなことに使わないで欲しい」「増税するって本当？」テレビの街頭インタビューなどで大人や周りの人達がそう言っているのを聞き、私は税金についてあまり良いイメージを持っていなかった。しかし、学校の教科書や医療費、町の整備など、私達は税に助けられながら生活している。それではなぜ人は税にあまり良いイメージを持っていないのかと疑問に思い、調べてみた。すると、興味深い記事を見つけた。

日本の税負担率は他の国と比べると軽い。しかし、増税等の話が上がると国民からの強い反発がある。その一方で北欧の国々は税負担が重いが、税負担に対する意識は日本と同じかそれ以下だというのだ。北欧の国がそのように感じるのは、税が国民一人一人の福祉のために使われていると実感し、「何かあっても国が守ってくれる」と安心感を持っているからだ。日本は税金に支えられているという実感があまりない。高齢者への福祉支援は手厚いものの、その他の国民は、自分達は支えられていないという不公平感を持っているからだ。私は、税金を何に使うかによって、国民の満足度・安心感は変わってくるのではないかと考える。

また、日本は今、財政が赤字状態だ。「今の政治は税金の無駄使いをしている」と感じる国民もいるのではないか。その中で社会に必要な支援を行えているか、無駄なお金を出していないかなども重要な観点ともいえる。

では、今私達が納めている税は無駄に使われているかと言われれば、そうではない。初めに書いたように、社会保障や災害時に使われる税金など、人々の役に立っている。こうした面を見ていくと、人は税の恩恵よりも負担に目を向けているのではないか。使い道や納税額に不満を持ち、北欧の国のような安心感を持っていない。だから税に対するイメージは悪いのだと思う。

まずは、税に対するイメージを変えていくことが大事なのではないか。「税金は、一人一人が笑顔で暮らす、安心して暮らすためのお金。」私は税について考える中で、そう思うようになった。自分が納めた税がこの国の誰かの役に立っている。そう考えると、納税を負担と捉えず、税で「笑顔になる」と捉えられるのではないか。

私達の生活の中でどれほどの税が使われているのか、考えてみたい。身の回りのものやサービスは誰かがくれた、私達の笑顔である。税について知り、考えることで、税に対するイメージは変わってくると思う。そして、イメージが変わることで税に対する理解も深まるのではないか。それを考えていくのは、これからの将来を担う私達だ。私は、税で「笑顔になる」と捉え、物事を様々な面から見られる人になりたい。